

小地域展

目川の歴史と文化

会期 3月8日(土) ~ 5月11日(日)

休館日 毎週月曜日(ただし5月5日は除く)
3月21日(金)、4月30日(水)、5月7日(水)

【展示解説会】 3月8日(土) 4月19日(土) 5月10日(土)
いずれも14:00から



滋賀県特定歴史公文書『栗太郡各村絵図』(簿冊番号 明へ-2)のうち「栗太郡第3区 目川村」

栗東歴史民俗博物館

〒520-3016 滋賀県栗東市小野 223-8 TEL 077-554-2733 / FAX 077-554-2755

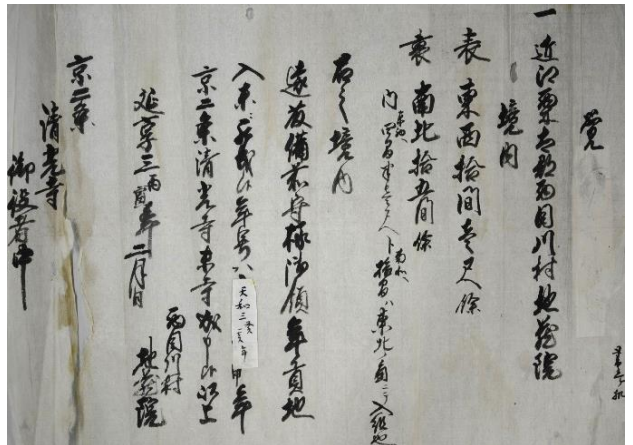
URL <https://www.city.ritto.lg.jp/hakubutsukan/>

栗東市目川（大字目川地区）は、江戸時代、集落を通過する東海道に沿って家並みが連なる街道の村でした。東海道には街道の休憩場所として“目川立場”が設けられ、行き交う人々がここで一服したと伝わります。ところで、目川立場は目川村と隣接する岡村との境界の岡村側に置かれました。つまり、厳密にいうと、目川立場は目川村にはなかったのですが、立場の茶屋が出す名物、田楽豆腐と菜飯のセットが“目川”と呼ばれ、目川の名前は全国的によく知られるようになっていました。

目川立場の位置を示す資料として『東海道分間延絵図』がありますが、目川立場の周辺には“目川村”と“岡村”の村名が記されています。この絵図が記された時代、実は目川地区は“東目川村”と“西目川村”の2ヶ村に分かれていました。江戸幕府の公式な記録でもある『東海道分間延絵図』に正確な村名が記されていないことは不思議ではありますが、目川立場の位置も含めてこのあたり一帯が“目川”という認識であったことを示唆しているのかもしれませんが、このように不思議なことも多い目川地区の歴史を、展覧会では特集して紹介します。



江戸時代は西目川村に含まれた地蔵院
(2024年8月撮影)



境内書上につき覚書

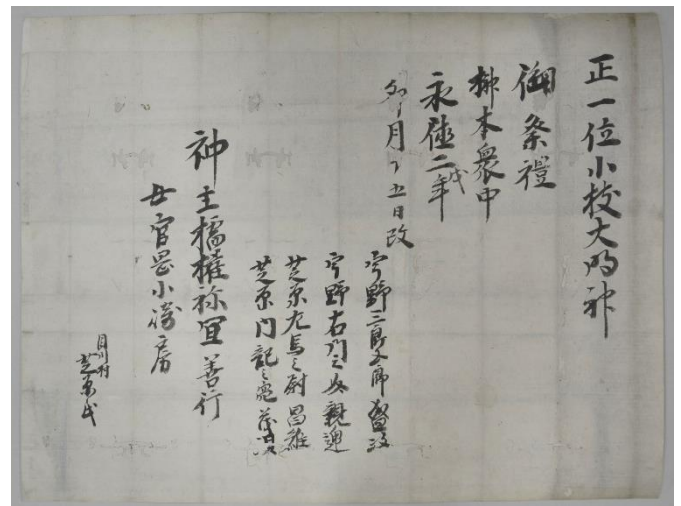
延享3年(1746) / 地蔵院蔵
西目川村 地蔵院から本末関係にあった京都の清光寺へ宛てて記された境内の面積の書き上げ。



小槻大社例祭での目川地区内での祭礼行列の様子

(2024年5月撮影)

氏子である小槻大社の祭礼では、干支により氏子地区で祭礼行列を輪番で務める。目川地区内では祭礼を取り仕切る神事元(榊本衆)の屋敷と、ここ専光寺境内で踊りを踊り、祭礼行列は神社へと向かう。なお、専光寺は江戸時代、東目川村に含まれた。



榊本衆書上写 / 個人蔵

榊本衆は小槻大社の祭礼を取り仕切った村の有力者。書き上げられた4人のうち、3番目の芝原昌維が目川村の榊本衆とされる。中世には小槻大社周辺を治めた青地氏の配下にあつたとされ、青地氏が衰退した江戸時代以降も、祭礼では中心的役割を果たしてきた。現在では“神事元”とよばれる。

